

2021年 新入試 外部検定

外部検定利用 2021年入試 「国立大＝今月 29日」 「全大学＝来月 13日」予告！

旺文社 教育情報センター 2019年11月18日

文部科学省は15日、全国の大学に対し、2021年入試での英語の外部検定(外検)利用について、来月13日をメドに発表するよう通知を出した。国立大については、すでに国大協が今月29日までに発表するよう、方針を示している。

【2021年入試 各大学の外検利用 予告メド】

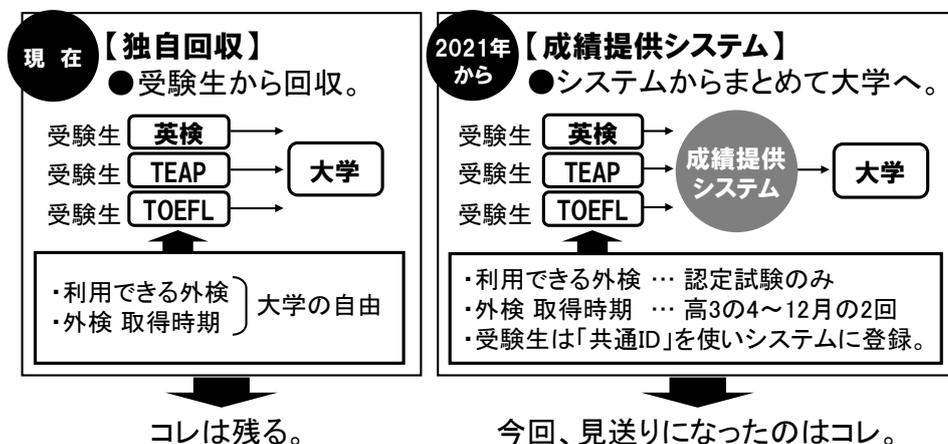
- 国立大…11月29日まで ← 国大協方針
(各大学HPにて発表。国大協HPにリンクを掲載)
- 全大学…12月13日メド ← 文科省通知
(各大学HPにて発表。文科省HP「大学入試英語ポータルサイト」にも情報を掲載)

●「独自回収」と「成績提供システム」

11月1日、萩生田文部科学大臣より、成績提供システムの見送りが発表された。注意したいのは、見送りになったのはあくまでシステムであり、外検の入試利用そのものではないという点だ。

大学が外検入試を行う場合、受験生から外検の成績を提出させるが、その回収方法には大きく以下の2通りがある(予定だった)。

【外検の成績回収方法】



今回見送りになったのは成績提供システムであり、独自回収をするのであれば、大学は外検入試を行うことができる。

現在すでに多くの大学が外検入試を行っているが、当然、すべてが独自回収で行っている。こうした大学はシステムが見送りになっても、外検入試は継続する可能性が比較的高いといえよう。

●独自回収でどうなるか

成績提供システムには2つ「制限」があった。すなわち外検は「認定試験」で、「高3で2回まで」の成績しか登録できないという点だ。独自回収では当然、これらの制限はない。認定外だった英検の従来型や TOEIC を利用可とする大学も出るだろうし、取得時期を高2まで認める大学も出るだろう。

1点不透明なのが2018年3月に発表されたCEFR対照表だ。システムが見送りになる前の各大学の予告では、CEFRで成績指定をしてくる大学が非常に多く見られた。

システムは見送りになったけれども、CEFR対照表もナシになったという発表はない。システム見送りの背景には世論の強い反対があったが、そこにはCEFRですべての認定試験を横並びに扱うことに対する疑念もあった。大学側としては、成績指定をCEFRですべきか、スコアや級ですべきか、また、利用できる外検を幅広くすべきか、限定すべきか悩ましいところだろう。

●大学は予告でどこまで発表するか

文科省が各大学に出した通知を見てみると、12月13日をメドに公表を求められている内容は「資格・検定の活用の有無」「活用方法等」とされている。確かに利用の有無は高校生にとって最低限、早急にほしい情報だ。ただし実際のところは「利用できる外検」までわからないと具体的な準備ができない。そのレベルやスコアの情報はほしい。受験生が安心して準備ができるような予告を大学に期待したい。